

ダイワコーポ

## 大和市に最大規模の物流センター

### 延床面積9万㎡超、ランプウエー採用

ダイワコーポレーション（本社・東京都品川区、曾根和光社長）は10月5日、同社最大規模の「横浜町田営業所」（完成イメージ）を神奈川県大和市で開設する。日本生命保険相互会社所有の「ニッセイロジステイクセンター横浜町田」を1棟賃借するもので、総延床面積9万㎡超の5階建て。同社の拠点はこれまで東京湾岸沿いに展開し

ており、神奈川県初の内陸部の拠点となる。

東名高速道路や、国道16号の保土ヶ谷バイパスに近接し、東京23区や横浜市といった首都圏の2大消費地にスムーズにアクセスでき、川崎市、八王子市、相模原市、藤沢市等の近郊主要都市にも1時間以内の立地。徒歩圏内（約1km）に3つの駅あり、広く沿線から従業員を募ることができる。周辺に住宅地があるため、近隣からのパートやアルバイトなどの雇用を生み出しやすい。

近年大型物流施設で一般的なランプウエイ方式を採用。1～4階まで各フロアをトラックで自走することができ、4階から5階へはエレベーター、垂直搬送機で貨物を搬送。有効天井高は5・5m以上確保しており、床荷重は1階が1㎡あたり2t、2～5階は1・5t。倉庫の照度は200ルクスとなっている。

施設入口からトラック待機場を経由してランプウエイに至る効率的な動線により、貨物の運

搬に要する時間を大幅に短縮できるよう設計。1階にはエントランス・駐車場・車寄せを整備している。近隣からのアクセスを見込み、乗用車駐車場127台・駐輪場140台（オートバイ8台を含む）と駐輪場を充実させている。

さらに、中央車路型で区切り、最小区画を665坪としてスペースを細かく使用できるようにしているのも特長。バース部分は奥行き約13mを確保し、区画ごとにパワーゲート車および海上コンテナ対応としてドックレベラーを用意した。

電力容量は通常の高圧受電物流施設は2000kwのところ、ロボティクスの導入を想定し、同施設は3000kwまで対応可能。その他、災害時に備え、非常用発電機も設置し、BCP対応設備も充実させている。

なお、ダイワコーポレーションでは現在関東を中心に事業を展開しているが、今後は関西や九州など他の大都市圏への進出も想定。同社が高卒採用を積極的に行っている沖縄にも拠点を置くことも目指す。物流不動産事業では、これまで主としてきた1社での借り上げだけでなく、同業倉庫会社と共同で倉庫開発する取り組みも検討する。

